

■ 法人会員の会セミナー 「IPって何、どんな仕事をしているの？」

7月7日国際フォーラムD-1で法人会員の会セミナーが開かれました。始めに法人会員の会代表幹事、(株)トミタの専務取締役の富田順三氏から、このセミナーを開催したいきさつについての説明がありました。「IPって何、どんな仕事をしているの?」「われわれが持っている品々がどのように関わっているのか」「どのように納まっているのか」「IPの方々から声をかけていただいているのか」「協会に所属しているメリットはなんだろう」これらの事を知りたく、このようなセミナーを企画しました。今回は4回目の最終回なので、締めていただくため、(株)NEX / m 代表取締役の中川さん、(株)イリア シニアプロジェクトディレクターの帛屋さんに講演をお願いしました。

(株)NEXT / m 代表取締役 中川誠一氏

私は、都市、建築、インテリアの魔術師です。これらから、私は何をやって、何を考えているのかをお話します。その前に私のプロフィールを紹介いたします。この写真は私が小学2年生の時の絵日記です。そして高校の制服を着た、汚れをしない青年がアルトサックスを持っている写真。そのころジャズにはまっていて、ディブ・ブルーベックカルテット(ピアノ、ディブ・ブルーベック、アルトサックス、ポール・デズモンド)のテイク・ファイブを得意とし演奏していました。(4分の5拍子の軽快なリズム)。大学(武美大)に入っても音楽は捨てきれず、ピーターポール&マリー“花はどこにいった”などコピーし、4人でバンドを組んでフォークソングをやっていました。昭和42年1月、事件が起きました。大阪市中央公会堂を、続けて翌週には東京大手町の日本工業倶楽部ビルも壊しました。(全学連?)スクリーンには突然怪獣が現れ“ゴモラ”だあ。そして歌い始めた。♪〜むね〜に、かが〜やく、マークは、流星〜♪。おなじみのウルトラマンである。壊したのは私ではなく、わたしは円谷プロでそれぞれのビルの模型を作るアルバイト。(27話、怪獣殿下、前後編)それ以来34年間インテリアに携わってきました。



私はインテリアに携わる運命にあった
中川 八 中側 デ 内側 八 室内 デ そしてインテリアだ。
参加した一同、氏の魔術にかかってしまった。

デザインだけが仕事ではない。
設計事務所に所属している建築担当者は、古い建物の改修を担当させられると、自分は恵まれていないと思う人がいるがそれは違います。ロンドンでもパリでも古い物を直して価値あるものにします。私は1999年4月BEEMS室(リニューアルのマネジメント部署)を作りました。

何を始めるか、どう始めるか、
2003年1月 (株)NEXT / mを立ち上げました。
計画が決まっていないとき、人は何をしたいか、どんな物をつくりたいか迷っています、そこから始めようと考えNEXT / mを始めました。例えばお店を開店するにもパンフレットをはじめ、メニューまで細かいものまでやることで、空間商売がうまくいきます。私の会社のモットーは、NEXT / m のmにあります。魔術師のmであり、MOVEMENTを捉まえリサーチして、MOTIVATIONをあげながらコンサルティングして、MARKETをみながらマネジメントする。この3つのmを掲げてやっています。これより258枚のスライドを写します。30分6秒です。このスライドはおかずだと思って私の話を聞いてください。

あなたとわたしの関係
設計事務所にいますと訪ねてきた人はすぐに先生とよびます。それはそれでいいのですが、私は業者と設計者の関係ではなく、パートナーとして、仕事ができる関係を目指そうと思っています。ですから会社では“さん”づけで呼ばれています。

ゴミの中にも宝がある
困っている会社では問題解決しなければならないその他の技術を求めています。私はそれをめざそうと、捨てたゴミの中から使えるゴミを探そう。そしてプロデュース、設計、販売そして調達までやります。

IP=インテリアプロデューサーだ
私も若い時には良いデザインをしていましたが、年をとると良いデザインが難しくなってきた。そこで良いプロデューサーになろうと決めた。この仕事は一人では絶対にできません、みなさんのなかにも得意分野の人が一杯います、その人達と一緒にやる方がいい。年を重ね良いデザインをする人もいます、その人たちはデザイナータイプで、反対にディレクタータイプの人もあります。

なんでもやる会社でありたい
※ ホテルプロジェクトで究極の客室13㎡に挑戦していますがまだ発表はできません。※商品企画開発は世の中にこんなものがあったらいいな、どうしてないのかと問う。出しても売れない・需要がない、というそんなものにも挑戦したい。※ 不動産取引もやっています。社員も宅建をとり、取引に参加しています。

法人会員のメリットになる話
私たちデザイナーはオーナーから財布を預かっています。限られた予算の中から、よりよいものを造るためには、企業の皆様に競争してもらわないと完成できません。クリエイターたちがいくら集まっても仕事にはなりません。デザイナーは自分の思っていることを、このようにして欲しいと現場の職人さん達と直接コミュニケーションします。ホテルの仕事だと特注家具も設計しますので中国に出かけますが、中国で作った家具が日本の感性に合うまでは相当の努力をしなければ、また努力をしてもらわないとできません。

やり直せと言うのは簡単だが
これはデザイナーとしても非常に言い難いものです。これに答えてくれる企業は永く付き合えます。
※ あるとき空港のラウンジのカーペットで問題がおきました。サンプルで決めた色が若干違っていた、そこで色が違うのではと施工業者に問うと、後日、違っていましたと申し出があり、全てを張り替えてくれました。言うまでもなく今では良い関係のパートナーである。※ このくらいしかできません。このくらいならいいのでは。という業者もいます。あえてその人に言います!良いものを見ていないと、良い仕事ができないと。

私たちデザイナーは悩んでいます
日々設計をしながら素材をさがしています。その悩みを法人会員の企業の皆さんに解決して欲しい。困った時のダイノックになってください。ダイノックが発売された当時、素材選びに苦慮していました。そんなときにとても使いやすい材料にめぐり会い、このダイノックが問題を解決してくれました。

成層圏のインテリア
〈ラグーナ蒲郡〉愛知県三河湾の浅瀬を埋め立て、商業施設、ホテル、マンション、遊園地(ディズニー・シーの小振)を造るという遠大な計画に参加しています。ランドスケープデザイナー、インテリアデザイナー、ライティング・グラフィック各デザイナー達を纏めてこの事業のプロジェクトマネージャーを7年間やっています。これは成層圏のふかんから見ないと判断できないプランです。20万ヘクタールの街づくりです。街がないとビルが建ちません。こんな事業にも手を染めています。昨年のクリスマスにそのマリーナに繫留された150艘のヨットがライトアップされました。すばらしい感動です。
本日は自分の紹介をこんなに赤裸々にしたのは初めてです。ありがとうございました。皆様のお役に立てれば光栄です。拍手 拍手。

■ 法人会員の会セミナー 「IPって何、どんな仕事をしているの？」

(株)イリア シニアプロジェクトディレクター 梶屋 正 氏

《代表作》 池ノ坊別館、鹿島 KIビル アトリウムの設計で快適性による心理効果の考察この仕事以降、対外的活動が多忙となり、また中部電力より原子力発電所の中央操縦室を設計を依頼他、東電、北陸、中国電力も携わる。



私が元々の賛助会員の呼称を法人会員にしようとしたのである。なぜならデザイナーはひとりでは何も作れない、皆と一緒に作る運命共同体なのだからと。

空間とはどういうものなのか

生活をしていく中で美は必須条件だ。以前イブ・サンローランが語っていた。年をとるとデザインがすぐに生まれなくなり苦しんだ。「人が生活していく上で美は必要」だと。私が思うに美とはそんなに簡単なものではない、意味の深いものだ。空間を作る人は、こういう事を知ってほしい。こういう事を分かっている。こういうことに疑問をもって思考してほしい。それが出来る人がインテリア・プランナーなのである。

私は若いときに幸運にも45日間の世界一周を経験させてもらったことがある。その中でイタリアに立ち寄ったときに知った現地でプレステージの高い職業は、医者、弁護士、そしてアルキテクト、つまり建築家であった。なぜなら依頼された建物を設計するときには、そのオーナーのことは無論のこと、生きること、社会のこと、経済のことも知らないと良い建物は出来ないからである。良い建物が出来れば良い町並みができる。だから建築家は高く評価を受けるのだ。

その後30歳の終わりにドイツへ赴任していたとき、私は原因不明の体調不良をきたした。その病気を治すことは生まれ育った場所では出来ないということだった。そして日本に戻り食養生をし、体調を回復することができた。このことから私は空気と水と食べ物の有り難さがわかった。日本には微妙に変化する四季があり、人間はこの生まれ育った所で生活するのが一番自然なのだ。

Holistic Design が今言われている

日本人はそれをもともと持っていた。たとえば川岸も、現在は護岸工事されコンクリートで固められた河であるが、昔は“きしべ”といった。これこそが日本人の心である。付け加えるならば、気候や食べ物への美意識が強い人間を作った。そこには宗教も哲学も入り込む隙がなかったのではないだろうか。現在の学校の在り方は均一で、子供たちの心が歪められている。私は若い人たちに尋ねた。土曜や日曜には出かけるのかと。彼らは、疲れる、お金がない、本も買えないと言う。

そんな人たちにあえて言う

せつかく私たちが体に持っている日本人の気質は、自然に感性で物を感じる事ができるのだからと。右脳で考え、そして互いにフィードバックで感じあえることをしなさい。吉村順三氏は「建築は音楽である」とよく言っていたものである。

日本最高のものを体験してほしい

映画やクラシック音楽でも、能や歌舞伎でも、その分野の芸術のトップアーティストたちの作品を見ること。それによって何らかの感動を得ることができ、その体験から良いデザインが生まれてくる。

今クライアントが求めるもの

今まではブランド品や、流行していたものが嗜好であったが、これからは長持ちする本物が求められる。それに対応するには自分自身が発信することだ。現代アートを見る、また海外に旅行する、そこは人種も違うし、空気や食べ物も違う。だからその違いを自分の感性に受け入れ、次を考えることができる。

空間は空気の質である

他人とうまくやっていくには、コミュニケーションしかありえない。一人一人違う感じ方をぶっつけあってこそ良いものが生まれるのだ。

※(梶屋氏の講演内容は3分の1にして、文も簡略化しております)
井上 常雄

■ 途中下車

7月の2週に関東地方が梅雨明けした。IPを受験したころは日本の平均日照時間はたしか2,000時間だったと記憶している。最近調べたら東京で2,000時間を大きく割り込み1,587時間で全国37位、トップは高知県の2,034時間である。そんな事を考えているところに法人会員さんから、情報委員会に「レインカットECO」と云う傘に付いている雨の滴を落とせませぬ、電気も使いません。との情報が届いた。

いだてん走りの常さん、早速現物を見に草加の(株)ヒガノさんにお邪魔した。対応して下さったのは営業課長の藤村さん。我が子を慈しむように製品の説明をしてくださりました。レインカットECOのしずくとりは、V字型の方で傘を3~4回振り、クリスマスケーキを八等分にしたような溝に傘を差込み(日本の傘の骨は8本)傘を数回上下させると、ほとんど滴はとれている。V型の方は特許品“しずくりん”といい、円筒型の方も特許“すいとーる”が設置され、両方とも吸水マットが滴をとるのである。面倒な傘袋が必要なくそのまま室内に入れるすぐれものと拝見した。ちなみに傘袋のビニールは一枚3円だそうで、単純に1日1,000人が利用するお店などでは、年間60日傘をさしたと仮定して、18万円の節約になり、ビニール袋を焼却しなくてすむ。水の溜まったビニール袋は燃えにくく、ダイオキシン、CO2等が大量にでる恐れがありますと器具を解体しながら説明いただいた。



次に届いた資料の中のプロ・フィットゲートのカタログはなにが特許なのか尋ねると、模型を持ってきて、これは軸になる柱にゲートが固定されていて、ゲート本体が支柱と一体となって回転するものだが、支柱のみに片持ちで支えられているためキャスターを必要としていない。そのため路面に勾配がある場合や降雪のある地域にも適している。その上、吊り金具を必要とせず、丁番もなく軽く動くのだ。

回転なので場所が必要になるのが欠点で、その場合には引戸も造っています。その際も下にレールは必要ありません。ご相談いただければどんなゲートにも対応できます」と自信満々。それもその筈、藤村さんは元設計にいたそうで、この会社の開発テーマは、社長、専務、営業担当が提案し、テーマごとにチームを組んで研究開発を行う中で、特許意匠の両面から権利化の可能性を検討して、製品を保護しているそうで、この姿勢が今年の4月18日の発明の日の特許庁長官表彰を特許活用優良企業として受賞された(産業財産権利制度活用優良企業)。賞状という、この会社、グッドデザイン賞の額が壁にランダムに掛けてある。もらったものには興味ないようで、新しいものに挑戦!の姿勢が感じられた。

他の器具では、傘立てが20センチの壁に収まるものや、東京国際フォーラムの道路脇に設置してあるムーブボードも見せていただいた。これはキャスターがボタン1個で収納できるので、固定もでき又移動も容易である。帰り際に社の門を出るとき門扉がトラス型で吊ってあったのには笑えた。紺屋の白袴

カタログ、お問い合わせは下記に連絡してください。
株式会社 ヒガノ 本社・工場 埼玉県草加市青柳3-24-7
TEL 048-931-3321 E-mail: info@higano.co.jp
担当 内田 連仁

■ ドイツ旅行記

JIPAT一般会員 昌子成彦 氏

2009年5月29日から14泊16日で一周してきました。インテリアにこだわるエコライフの実践者と勝手に自認していますが、国内の師匠筋とは別に、大好きなドイツの人がどうしているか興味を持ち出掛けました。テーマとして

1. ロマネスクから新古典迄の建築（≒ユネスコ遺産）及び彫刻師リ－メンシュナイダーの作品鑑賞

2. 黒い森フライブルグのソーラー現況視察

3. 2大イベントの見学

ベルリンの壁崩壊20周年連邦ガーデニングショー『BUGA 2009』（ハンブルグとベルリンの間に位置するシュベリーンで開催され180万人が訪れる50年以上続く、季節の花々と庭園が見られるショー。）

4. クラインガルデン（*注1）見学・住宅展示場訪問・フランクフルトのエコ建築見学も加えてバウビオロギーの知識も増やそうと欲張りでしたが、買物・食事・観光が目的の同伴者と折り合いをつけ結果としてのんびりした日程消化でした。

単位耕地面積の広さと、河川・運河利用の巧みさに圧倒され、せいぜいクラインガルデンを良く見ましたが、旗を掲揚し、BSアンテナを立て、孫歓迎遊具もある多種多様さには驚きました。

住宅展示場はフランクフルトとミュンヘン郊外にあります。写真1参照）内容は同じでした。構造・壁厚・間取り見ているだけで半日過ぎますが、プラスエネルギー迄進化する高性能・100年耐用の真髓を垣間見た思いです。その中でダヴィンチハウスと庭園は一目で大好きになりました。写真2参照）椅子は特に良く見ましたが、鉄道1等ビジネスシートは格別で、本革・固め・角度・機能も良く大満足でした。駅のイスも鉄製ですが機能的でした。写真3参照）



写真3

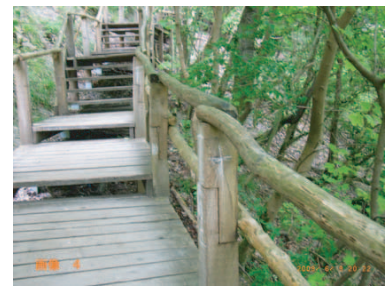


写真4

デジタル化の完了したテレビにも興味ありましたが、ザ・リッツカールトン・ホテルベルリン以外全てブラウン管タイプで30チャンネル以上見る事ができました。携帯電話同様過剰機能よりもコストを選んだ結果と推測します。

北のリューゲン島（*注2）に行った折、王様のイスという名所の海岸まで下る木製階段道で見つけたのですが、踏面の奥行きが奇数ステップになるよう造られています。つまり急斜面なら左右の足で順に上下、緩やかなら3ステップで上下、まるでワルツテンポで進めるのです。老化で片側の足だけで上下する偶数ステップは困るので助かりました。

（写真4参照）参考になるかと最大のホームセンターOBIIにいきましたが無駄足でした。（欲しい斧は税関で没収されそうですし、建築金物は大きすぎて持ち運べず、野菜・花の種はご禁制のようなので。但し絶対壊れそうに無いハンディなスコップと熊手は色もデザインも良いので購入）直接関係ありませんが、人情は温かく、親切にもらって何回も助かりました。一説によるとドイツ人は特に親日的で、極東の隣国人も多く見かけましたが、グループだと一人が話していてもお構いなく話しかけたり（煩い!）臭い人（ニンニク?）が居るので嫌われているようです。

最後に帰国後振り返って考えた事ですが、消費税は3年前より3%増えて19%でした。ドイツの人は初代が家を建て（伝統的に100年耐久）2代目が家具を揃え（高品質で耐用年数長い）3代目が食器その他を揃えると聞きましたが「スローアンドロングライフ」日本も戦前まで定着していた良き生活習慣に共通します。国防費も含めた納税意識の成熟も含めて、大量生産・大量消費の対局なスタイルは高額な間接税を受入れ易くしているようです。住宅インテリアの環境として彼我の差を意識できました。

簡単ですがご報告まで。ドイツ人に人気の国内場所ベスト50、ドイツ鉄道の利用、宿のブッキング、食事、コインランドリーの探し方などもっと参考にしたい方はmailでご連絡ください。

"昌子成彦" <n_-shouji@rhythm.ocn.ne.jp>



写真1



写真2

*注1 クラインガルデン

（独 kleingarten）とはドイツで盛んな200年の歴史を持つ農地の賃借制度、運動を促したシュレーパー博士にちなんで「シュレーパーガルデン」とも呼ばれる。日本語直訳は市民農園、希望者はクラインガルデン協会の会員になって、およそ150万円を終身会員と成る。宿泊は不許可、有機野菜を一部作ることが義務、都市部で増えつつある。

*注2 リューゲン島(Ruegen)

ドイツの北側、バルト海（Ostsee）に浮かぶ最大の島、東ドイツ当時から人気のリゾート地として、有名ですが アジア人の観光客はほとんどいません。

■ 理事会トピックス

【理事会】

平成21年度第1四半期収支が承認されました。

【総務委員会】

（委員長会議）事務局移転候補場所および状況を報告されました。

【事業委員会】

7月17日の「木下史青氏講演会」出席申込121名+αに達した。

【情報委員会】

7月2日 ジャーナルを発送した。

【会員交流委員会】

会員交流ツアー「因州和紙の里と匠の技にふれる旅」の詳細が報告されました。

【教育普及委員会】

IP受験セミナーのポスターが完成披露され、学校・各団体へ発送された。

【会員増強特別委員会】

8月21日 協会外との交流会を開催する。

【法人会員の会】

法人会員の会 全体会議の開催報告がなされた。

【広報室】

休刊中のJAEIC発行の「インテリアプランナーニュース」が今秋再刊予定。

JIPATの活動ニュース提供をする。

【JIPA】

インテリアプランナー100選についての中間報告がなされた。

【IPEC】

デザイナーズショーケースの審査委員に佐藤卓氏、テーマ「陰影」に決定。

■ 編集後記

国際フォーラムのセミナーの記事。さっぱりしたコラムにしようと考えましたが中川さん、馬屋さんの話は、本当に深い、深い経験のもとのお話で、若い皆さんに是非とも読んでいただきたいと、主要部分は掲載させていただきました。

情報委員会ニュースレター担当 井上常雄